



さを実証した。ところが思わぬ落とし穴が待っていた。

当時の“くりくり少年野球選手権大会”は8月15日前後のお盆の期間におこなわれることが多かった。その頃 地元千葉では、“千葉日報杯”も開催され、日程重複などの問題が発生した。当時のくりくり連合会の役員だった黒澤氏は「連盟代表のあるチームは次年度、“千葉日報杯”の方に出場。また、両方の大会に出場し、どちらも勝ち上がったため日程調整つかず“くりくり大会”の方を棄権してしまったケース。当初“千葉日報杯”との重複はなかったが、雨天のため順延となり朝千葉で試合をし、午後西武で試合をしなければならない強硬スケジュールになってしまったケース。開会式に登録選手ではなく代理の4年生が参加した為、相手チームよりばかに小さいので指摘されてしまい、その後の試合を辞退せざるをえなかったケース。そして、当時の関越道は渋滞することが多くお盆の帰省ラッシュと重なり、優勝旗の到着が遅れなんとか入場行進の最後に並ぶことができたケース」など当時の苦労話を話す。

あわや連盟除名の危機にたたされましたが、当時の連盟派遣役員〔菅澤氏・今村氏・黒澤氏〕の懸命な努力で、回避することができました。役員にとって、いつになっても“千葉日報杯”またその後新設された“関東学童大会・スポーツ少年団関東大会”などの動向と大会期間中の天気に関心が離せません。

1982年（昭和57年）の第4回大会より出場した“くりくり少年野球選手権大会”連盟代表「高洲コンドルス」はベスト8に入賞、以後6回大会「花見川少年ジャイアンツ」第3位、7回大会「袖ヶ浦ボーイズ」第3位と千葉の少年野球のレベルの高

1990年・平成2年



千葉県ではメインとなる野球場として千葉県総合スポーツセンター内の千葉県野球場（1968年・昭和43年完成）が使用されていた。しかし、千葉県野球場はナイター設備がないことや収容人員が30,000人に満たないこと、さらに当時はモノレールも未開通だったことなど問題点が多く、プロ野球公式戦は長らく県内ではおこなわれなかった。

千葉市は1980年代の初頭に大規模野球場を建設する計画を立てたがこれは挫折した。その後 幕張新都心計画に組み込まれる形で計画が復活し、多目的野球場として建設されることになった。仮称は「千葉野球場」。起工式は1988年（昭和63年）2月22日におこなわれた。当時、老朽化しかつ狭い川崎球場を本拠地としていたロッテの進出も決まり、1990年（平成2年）2月22日竣工、同年3月開場した。開業を知った加藤元理事長は顧問の先生と共に使用を千葉市役所に申し入れた。熱意と努力が認められ、同年4月7日第14回春季大会の開会式と3試合がおこなわれた。千葉マリスタジアムでの少年野球の使用はこれが初めてであった。

現在まで春季大会での使用は続き、当初は1日のみの使用であつたが、その後「もっと子供達にプロ野球仕様の公式球場で試合をさせてあげたい」との声もあり、2012年（平成24年）第36回春季大会より加盟クラブのご支援を得て2日間開催となり計7試合おこなう事ができ、これによって各クラブより多くプロ仕様のマリスタジアムを体験していただけるようになった。

1976-85

1986-95

1996-2005

2006-15

2016-25

1993年・平成5年～1994年・平成6年



1993年（平成5年）一步一步諸問題を解決して万版順風に推移してきた京葉少年野球連盟であったが、連盟存続危機の大問題が発生した。17年間少年野球のメッカとして使用し続けた高浜四面グラウンドの所有者千葉市が用地を住宅都市整備公団に売却の話が聴こえてきた。これが実現

すれば、大会開催も出来ず路頭に迷ってしまった。加藤元理事長ほか役員一同、顧問の先生と協議を重ね1994年（平成6年）6月千葉市少年軟式野球連盟・美浜区少年軟式野球連盟・関東団地少年野球連盟千葉支部の皆さんのご協力えて、たくさんの署名とともに松井旭千葉市長に陳情書を提出した。

顧問の先生方のお力を借り、千葉市との折衝を重ね、浦安や四街道の空き地の話もあったが、最終的には、千葉市中央卸売市場内球場をお借りすることができました。顧問の先生方の御努力に感謝いたします。



(右) 卸売市場球場 全景

卸売市場球場は市場に働く皆さんの厚生施設として建設されたため千葉市の整備予算も限られおり、それゆえに恒例の行事もあった。毎年9月中旬、秋季大会開催前の土曜日におこなわれる「市場球場グラウンド整備」。連盟の呼びかけで各クラブから自主的に毎回300人を超える部員・指導者・保護者の皆さんが集まり、グラウンド内外の草刈・草取り・小石拾いなどをしていただきました。こんな歴史や努力の上に市場球場での大会がおこなわれていた。



卸売市場球場のグラウンド整備

1996年・平成8年

六年生の野球少年たちは、早くも卒業して中学へ進学する。小生時代の「最後の思い出の野球」として、千葉市の京葉少年野球連盟が二月九日、同市美浜区高浜の中央卸売市場グラウンドで恒例の卒部記念大会を開催した。六年生は「後輩に恥ずかしい試合を」と、使いこなし「プロ」の審判を主戦力に、試合を盛り上げた。

第15回卒部記念大会は、273歳の審判団が参加した。同日、高浜四面グラウンドを会場とした京葉少年野球連盟の卒部記念大会は、29チームが参加した。会場には、29チームの旗が掲げられ、選手たちは、それぞれの所属のユニフォームを着て、試合に臨んだ。

大会は、午前九時から午後三時まで行われ、三試合が行われた。試合は、激戦を繰り広げ、観戦者も大盛り上がりを見せた。

大会の開催に当たっては、顧問の先生方をはじめ、多くのボランティアが協力した。大会は無事終了し、選手たちは、それぞれの所属のユニフォームを着て、試合に臨んだ。

大会の開催に当たっては、顧問の先生方をはじめ、多くのボランティアが協力した。大会は無事終了し、選手たちは、それぞれの所属のユニフォームを着て、試合に臨んだ。

- 1976-85
- 1986-95
- 1996-2005
- 2006-15
- 2016-25

第14章

くりくり大会の活躍(2)

くりくり新聞で振り返る
第8回から第17回まで



第8回くりくりセンバツ少年野球大会 1986年・昭和61年

出場チーム：高洲コンドルズ

2
回
戦

高洲コンドルズ 5-0 緑ヶ丘ジャイアンツ(調布)

バッテリー 橋口・瀬尾⇒亀井
長打 橋口・土金(二塁打)

3
回
戦

高洲コンドルズ 1-0 中野ファイターズ(中野)

バッテリー 橋口⇒亀井
長打 -

準
々
決
勝

高洲コンドルズ 1-9 仲町ビッグフィガサス(江戸川)

バッテリー 橋口⇒亀井
長打 土金(三塁打)

仲町打線が爆発。守っても田沢が好投を見せ高洲を破った。2点を先取した仲町は3回、9番長友が四球で出塁。さらにバンドヒット、野選で無死満塁となり、3番田沢が中前して加点。その後打順一巡の攻撃で5点をあげ試合を決めた。高洲は4回、先頭の土金がセンター頭上を越える三塁打。ワイルドピッチで生還して1点をあげたが、仲町の田沢投手の速球を打ち崩せなかった。

第9回くりくりセンバツ少年野球大会 1987年・昭和62年

出場チーム：花見川ジャイアンツ【第3位】

2
回
戦

花見川ジャイアンツ 5-1 加地タイガース(飯能)

バッテリー 玉川⇒下田
長打 金子真(三塁打)・玉川(二塁打)

3
回
戦

花見川ジャイアンツ 1-0 リトルフッシュ(足立)

バッテリー 玉川⇒下田
長打 金子真(本塁打)・川田(二塁打)

準
々
決
勝

花見川ジャイアンツ 2-0 ケープジャック(東久留米)

バッテリー 玉川⇒下田
長打 -

花見川が先取点を守り切り準決勝にコマを進めた。花見川は1回、先頭の金子博、2番の代見が左右に連続安打して一塁・二塁。その後二死、二塁・三塁の好機に小田の二塁ゴロが敵失となり2走者生還。ケープジャックは大会屈指の好投手との評判の玉川投手の変化ある投球を打ちあぐみ力尽きた。

準
決
勝

花見川ジャイアンツ 3-4 杉森クラブ(調布)

バッテリー 玉川⇒下田
長打 玉川(本塁打)

杉森がサヨナラ勝ちをした。先手3点を先取された杉森は1回裏、先頭が敵失に乗じて一気に三進。続く打者が犠牲フライ、3番西村に本塁打を浴び同点にされた。最終回、四球の打者を置いて主砲・西村が中堅に打ち返えされてしまった。花見川は、玉川の2ランホームランで先制。追いつかれてもリードするなど主導権を握っていたが、最後逆転されるスリリングな幕切れとなった。試合後、玉川投手は「精一杯やったので悔いはありません。対戦相手に苦しかったのは加地タイガース戦」でした。僕は来年は来れないけど、くり戦以降の大会で頑張ります。」と語った。

第10回くりくりセンバツ少年野球大会 1988年・昭和63年

出場チーム：高洲コンドルズ【第3位】

2
回
戦

高洲コンドルズ 1-0 パンプス(港)

バッテリー 伊藤正⇒森本
長打 -

3
回
戦

高洲コンドルズ 1-0 小手指ファイターズ(所沢)

バッテリー 伊藤正⇒森本
長打 名古屋(三塁打)

準
々
決
勝

高洲コンドルズ 5-2 ホワイトユニオンズ(豊島)

バッテリー 伊藤正⇒森本
長打 森本・日置・森(本塁打)

高洲が鮮やかな連続3本塁打で勝負を決めた。ゼロ行進が続いた3回裏高洲の攻撃、二死一塁・三塁で森本が左超えの3ラン。後続の日置・森も本塁打を放ち一挙5点をあげ、千葉NO1の貫禄を見せた。ホワイトは、1・2回戦で好投を見せた伊藤投手の前に涙をのんだ。



やったぜ 【ホワイトユニオンズ対高洲コンドルズ】3回裏裏二死一、三塁高洲中野ランニングホームランをホームイン

選手操作法に暗示
①黄色の地に赤のコンド
ルが描かれたグラブとキャ
ップを高く掲げ、選手は
正入投手を中心に投球と三
拍子そろった好チーム、4強
入りを果たした快進撃の秘密
を聞くと「コンド操作だ」と
と日置芳弘選手(6年)の第
二愛(愛)選手(6年)。試合中、
トイレに行きたくなるとい
うにおなかをもむ。吉田巧
一選手の発案。選手の健康管理
も暗示が必要だ。(よ)



▲ 向丘クラブにサドンデスで敗れ涙し泣き出す高洲コンドルズ選手

準
決
勝

高洲コンドルズ 0(1)-0(2) 向丘クラブ(川崎)

バッテリー 伊藤正⇒森本
長打 日置(二塁打)

サドンデス

両チームとも好投手管と伊藤正を打ち崩せずサドンデスで決着がついた。高洲は1回、二死二塁・三塁の好機をつぶす。2回は森の右前安打、淵野の犠打で三進したが、いずれも後続がなく残塁。4回一死から日置が左超えの二塁打後、代走枝元を送りこんだが管の力投に好機をつぶした。サドンデスは2回行われ、2-1で向丘が振り切った。

第11回くりくりセンバツ少年野球大会 1989年・平成1年

出場チーム：花見川ジャイアンツ【準優勝】

1
回
戦

花見川ジャイアンツ 10-2 ジュニアボーイ(豊島)

バッテリー 島田⇒高倉
長打 島田・島田・小林(本塁打)・久保(二塁打)

2
回
戦

花見川ジャイアンツ 8-3 出雲ライオンズ(太田)

バッテリー 島田⇒高倉
長打 河合(本塁打)・島田・中川・大柴・小林(二塁打)

3
回
戦

花見川ジャイアンツ 4-3 新所沢ライノーズ(所沢)

バッテリー 島田⇒高倉
長打 河合(本塁打)・大柴(二塁打)

準
々
決
勝

花見川ジャイアンツ 2-0 大宮フレンド(大宮)

バッテリー 島田⇒高倉
長打 中川(三塁打)・高倉(二塁打)

花見川が敵失で得た2点を守り切り完封勝ち。花見川は3回、高倉が左超えの二塁打。続く小壁が内野の敵失で出塁。二塁・三塁の好機にワイルドピッチ、2走者が生還し先取点を挙げた。大宮はチャンスに一塁・二塁間に挟まれタッチアウトや好機にファインプレーに合うなどして惜敗した。

準
決
勝

花見川ジャイアンツ 9-2 淀四ビクトリー(新宿)

バッテリー 島田・小林⇒高倉
長打 中川(三塁打)・久保(二塁打)

淀四は初回、先頭打者本橋の本塁打で先制したが、花見川はその裏、大柴と小林の連打で同点。さらに久保の右前安打で一気に逆転。その後も4回裏、1番小壁が三遊間を抜いて出塁し、小林の中前打で5点目。さらに河合・中川らが出塁し、重盗を決めるなど確実に加点するとともに島田・小林両投手が淀四打線を抑えて決勝進出を決めた。

決
勝

花見川ジャイアンツ 3-10 クラウンケープ(東久留米)

バッテリー 小林・島田⇒高倉
長打 島田・久保(本塁打)

決勝戦は攻投手と三拍子そろった大型チームの対決となったが、投打に勝るクラウンケープが3本塁打を含む長短打を相手投手に浴びさせて圧勝した。花見川は最終回、島田・久保の本塁打などで追撃。3点をあげたが及ばなかった。

悔し涙ぬぐい
再起を誓う
花見川ジャイアンツ
「またやりますよ」。吉田
光夫監督(51歳)はクラウン
ドをにらみながらこうつぶや
いた。4年間、手塩にかけて
育てた選手たちの強力打線は
決勝戦で沈黙した。「5回表
に5点を入れられ、追撃が遅
れた」と無念そう。エースの
島田哲君(6年)が5連投、
100球以上投げて肩を痛
め、リリーフにまわった。「投
げたかった」と島田君。決勝
まで37勝1敗の強豪チーム。
今までに獲得した優勝旗は8
本。「負ける味を知るのはい
い。いい涙を流した」と吉田
雅和コーチ(46歳)。主将の
小壁雄志君(6年)は「勝つ
つもりだったのに、ストライ
クを逃してボール球に手を出
した。4日後、千葉大会準決
勝戦。絶対勝つてみせます」と
悔し涙をぬぐった。

第12回くりくりセンバツ少年野球大会 1990年・平成2年 出場チーム：高洲コンドルズ

2回戦

高洲コンドルズ 4-1 大宮ファミリーズ (大宮)

バッテリー -

長打 -

3回戦

高洲コンドルズ 5-9 ヨンショウイーグルス (東久留米)

バッテリー 岡島⇒板野

長打 板野・助石 (本塁打)・岡島 (三塁打)



第13回くりくりセンバツ少年野球大会 1991年・平成3年 出場チーム：高浜ジュニアーズ

2回戦

高浜ジュニアーズ 1-0 加地東クライムドラゴン (飯能)

バッテリー 伊藤⇒大谷

長打 -

3回戦

高浜ジュニアーズ 6-0 ドリームセブン (東久留米)

バッテリー 伊藤⇒大谷

長打 高橋 (三塁打)

準々決勝

高浜ジュニアーズ 3-0 高階南ヤンガース (川越)

バッテリー 伊藤⇒大谷

長打 -

第14回くりくりセンバツ少年野球大会 1992年・平成4年 出場チーム：真砂ハンターズ / 磯辺シーグルス

出場チーム：真砂ハンターズ

2回戦

真砂ハンターズ 1-0 新座ツインズ (新座)

バッテリー 長峰⇒川島

長打 長峰・吉田 (二塁打)

3回戦

真砂ハンターズ 0-1 調布ベアーズ (調布)

バッテリー 長峰⇒川島

長打 -

出場チーム：磯辺シーグルス

2回戦

磯辺シーグルス 3-0 ステラース (荒川)

バッテリー 若林⇒肥田

長打 若林 (二塁打)

3回戦

磯辺シーグルス 2-5 向原ファイターズ (目黒)

バッテリー 長峰⇒川島

長打 若林・渡辺 (本塁打)



西武ライオンズ球場で行われた開会式＝本社ヘリから



2000年、本社のヘリで、選手を運ぶため、観客のホールドアップ

第15回くりくりセンバツ少年野球大会 1993年・平成5年 出場チーム：花見川ジャイアンツ / 袖ヶ浦ボーイズ

出場チーム / 花見川ジャイアンツ

1回戦

花見川ジャイアンツ 4-5 原市場ライオンズ (飯能)

バッテリー 伊東⇒今

長打 板野・今 (二塁打)

出場チーム / 袖ヶ浦ボーイズ

2回戦

袖ヶ浦ボーイズ 6-5 大空キングス (札幌)

バッテリー 吉野恭⇒吉野耕

長打 -

3回戦

袖ヶ浦ボーイズ 2-0 元加賀 (江東)

バッテリー 吉野恭⇒吉野耕

長打 吉野恭・吉野耕 (二塁打)

準々決勝

袖ヶ浦ボーイズ 1-4 キングドルフィンズ (群馬)

バッテリー 吉野恭⇒吉野耕

長打 江曾 (三塁打)

左腕同志の対決は、スクイズなど多彩な攻めを見せたキングに軍配が上がった。キングは2回、左中間二塁打の水上を置いて、6番丸田が中前のタイムリー。更にスクイズで2点。さらに4回、芋川の左前打と5回にも相手守備陣の乱れで加点。一方、再三のチャンスをつかむが得点できない袖ヶ浦。5回、江曾の右翼線を破る三塁打で粘りを見せたが、決定打が出ず、相手エラーで1点を返すにとどまった。

第16回くりくりセンバツ少年野球大会 1994年・平成6年 出場チーム：わかしおタイガース / さつきが丘ファイターズ

出場チーム / わかしおタイガース

2回戦

わかしおタイガース 3-14 霞が関イーグルス (川崎)

バッテリー 竹内⇒渡辺英

長打 -

出場チーム / さつきが丘ファイターズ

2回戦

さつきが丘ファイターズ 2-5 新小少年野球 (狭小)

バッテリー 青石・石川⇒浜田

長打 -

高州・只木と上の原・山岸投手の投げ合いで緊迫した試合展開。延長6回、0-0のまま勝負つかず延長線に突入。高州の攻撃、一死二・三塁から強硬策に出た。1番郡司のあたりは遊撃右を強烈に破り、試合の決着をつけた。

第17回くりくりセンバツ少年野球大会 1995年・平成7年 出場チーム：間野台ジャイアンツ

1回戦

間野台ジャイアンツ 1-5 国分寺キングス (国分寺)

バッテリー 辻野・浜口⇒鈴木

長打 原田 (本塁打)

1976-85
1986-95
1996-2005
2006-15
2016-25

ネット裏から見た 京葉少年野球 この10年 (2)

1986年・昭和61年～1995年・平成7年

驚異の戦績 37勝1敗 花見川ジャイアンツの活躍



優勝した花見川ジャイアンツナイン

平成元年（1989年）今では考えられないような常勝チームがいた。そのチームは「花見川ジャイアンツ」8月16日西武ライオンズ球場でおこなわれた第11回くりくり少年野球選手権大会決勝戦 対クラウンケープ（東久留米代表）の試合では、自慢の破壊力のある打線が爆発しないまま3対10で涙を飲んだ。

しかし「花見川ジャイアンツ」の戦績がすごい。この決勝戦まで37勝1敗。優勝旗すでに8本獲得していた。3月の卒部式には17本の優勝旗勝（高倉氏談）が壇上に飾られたそうだ。

花見川ジャイアンツ 主要大会 戦績

主催団体	試合日	結果	大会名・試合結果
千葉市少年軟式野球連盟 (千葉地区連盟)	4月30日	優勝	第18回 春季大会 花見川ジャイアンツ 3-2 千草台スターズ
千葉市少年軟式野球連盟	5月14日	第3位	第4回 春季中央大会(サドンデス) 花見川ジャイアンツ 6-7 生浜ヤンキース
京葉少年野球連盟	5月28日	優勝	第13回 春季大会(延長8回) 花見川ジャイアンツ 7-6 磯辺シャークス
関東団地少年野球連盟 (千葉支部)	6月18日	優勝	第19回 朝日旗争奪千葉支部大会 花見川ジャイアンツ 8-4 こてはし台ヤングライオンズ
関東団地少年野球連盟	6月25日	優勝	第15回 関東団地少年野球連盟中央大会 花見川ジャイアンツ 3-2 滝の沢ホワイトロビンス
京葉少年野球連盟	7月16日	優勝	第10回 夏季大会(延長8回) 花見川ジャイアンツ 11-3 磯辺シーグルス

大会得点累計 97点 袖ヶ浦ボーイズ Bチーム

また とてつもない『猛打のチーム』が出現しました。

1994年(平成6年)第16回春季大会Bゾーンに参加した袖ヶ浦ボーイズの戦績は右記の通り。

1回戦	袖ヶ浦ボーイズ	42-0	小中台南イーグルス
2回戦	袖ヶ浦ボーイズ	不戦勝	あやめ台マリーンズ
3回戦	袖ヶ浦ボーイズ	12-7	園生わかば
準決勝	袖ヶ浦ボーイズ	25-7	高洲ストロングス
決勝	袖ヶ浦ボーイズ	18-2	酒々井ビッグアローズ

猛打の袖ヶ浦ボーイズ優勝

京葉少年野球春季大会Bゾーン

一試合平均24得点

千葉市勢は準決勝で涙

三市一町の少年野球チームと対する。31チームが参加して火花を散らした京葉少年野球第18回春季大会Bゾーン決勝は先ごろ、千葉市美浜区の高浜D面球場で行われた。

千葉市勢は高浜ジュニアズと高洲ストロングスがベスト4入りしたが、両チーム共に惜しくも準決勝で涙を流した。決勝は袖ヶ浦ボーイズと酒々井ビッグアローズの対戦となった。今大会はボーイズの強さがきわだち、強豪ビッグアローズもボーイズ打線の前に沈黙。18対2の大差でボーイズが優勝した。二回戦からの戦績と決勝の展開は次のとおり。

▽二回戦
花見川少年ジャイアンツ 5-4 花見川ファイターズ
高浜ジュニアズ 14-3 内郷スターアローズ
酒々井ビッグアローズ 14-1 インディアヤンズ
白井ランチョ 20-7 幸町クリー
高洲ストロ10-3 ルジャヤガイト
真砂リトル 8-7 真砂ヤンガ
ベアリス 11-1 高洲コンドルス
園生わかば 11-1 高洲コンドルス
袖ヶ浦ボーイズ 不戦勝
あやめ台マリーンズ

▽三回戦
高浜ジュニアズ 6-3 シャイアン
花見川少年ジャイアンツ
酒々井ビッグアローズ 6-5 ヤーリス
高洲ストロ 7-4 真砂リトル
袖ヶ浦ボーイズ 12-7 園生わかば
▽準決勝
酒々井ビッグアローズ 5-4 高浜ジュニアズ
袖ヶ浦ボーイズ 25-7 高洲ストロ
▽決勝
袖ヶ浦ボーイズ 18-2 酒々井ビッグアローズ
▽バッテリー 森田大介

村山 吉野耕平(袖)、古平 真一、関谷明一、笠川慶一郎、生駒直也(酒)
▽3塁打 岡田良平、森田大介、藤野剛平、関雄介(袖)
▽3塁打 吉野耕平(袖)
生駒直也(酒)
袖ヶ浦ボーイズはほぼ全安打。長打5本を含む18安打と打ちまくった。投げては森田、村山両投手が力投。87球で酒々井ビッグアローズを5奪三振、2安打におさえて庄勝した。

ボーイズは一回、4番吉野の左越る暴打で先制すると、二回には3安打を得点に結んで2点を加えた。「勢いが止まらない」といわんばかりにボーイズは三回、この回トップの3番村山から3連打。さらに一死満塁の好機に連打に次ぐ連打の猛攻。打者13人、7安打で大量8点を奪った。

ボーイズはその後もチャンスに長短打を放ってリードを広げ、最終回にこれが総仕上げ。とばかり、3本の3塁打で5点を加えた。まさに豪華火花を見るような攻撃ぶりだった。

一方、堅実な攻守で決勝へ進出したビッグアローズだったが、決勝では彼に乘れず実力を発揮できなかった。しかし六回、一死走者1、2塁に3番生駒がスカッとする2塁打を放って意地をみせた。

それにしてはボーイズは今大会一回戦で小中台南イーグルスを42対0と、信じられない大量点で完封勝ちしたのを皮切りに、決勝まで、12対7、25対7、18対2とすべて2ケタ得点の快進撃だった。4試合の総得点が97点というのは、本県の少年野球史上初の記録ではないだろうか。